

講座その4, 竹の開花と枯死について

数年前からハチクの開花が話題になっていますが、中日新聞2023年5月1日朝刊に名古屋大学の野外植物園でクロチクが開花した写真が載りました。同じ日の『くらし歳時記』欄にも鎌倉での竹(名前は不明)の開花が投稿されています。

新聞に載ったクロチクの開花↓



ネットで調べると 2019年ころより西日本側から関東に至るまで開花の報告が続く中、2022年4月に東山植物園でウンモンチクが開花、とあり驚いて見に行ったのが2023年3月のことです。(ウンモンチクもクロチクもハチクの突然変異体なのだそうです。)



↑ 竹見本園のウンモンチク↓(4枚とも)



開花から1年たっているのですが、ウンモンチクは稈も枝の穂先も全部茶色に枯れていましたが、根元には再生竹のような緑の葉が生え(回復笹)、タケノコも数本出ていました。ハチク系の地下茎は開花後も1年は生きていて、年数はかかるが再び竹林として甦るとの予測が表れていると思いました。

<竹の開花はなぜ起きるのか？>

→竹は地下茎の芽が成長して竹となる無性繁殖・栄養繁殖をするが、長年にわたりそれを繰り返している間にその一連の地下茎に開花時代がきて、その地下茎から出ている竹が、老いも若きも一斉に全て開花する。一種の周期的な世代交代と言える。(上田)

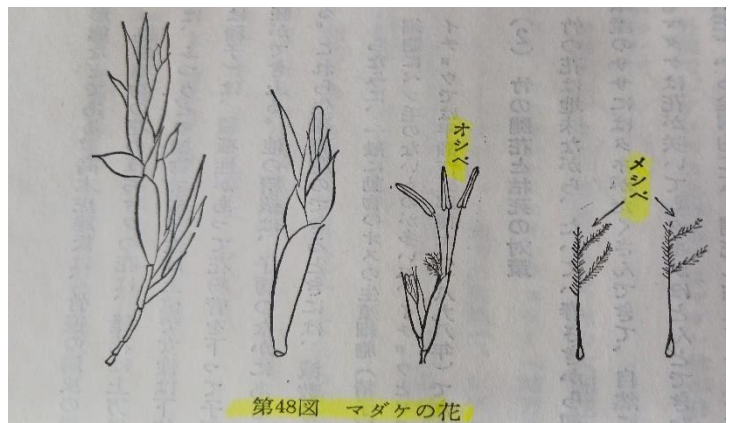
→その周期は何年なのか？…過去の開花の記録からマダケ、ハチク類は120年とされる。

→開花年代に入った地下茎の竹が移植された場合、外国にあっても、鉢植えであっても同時に枯れたのは神秘的な事実。1964年マダケの大開花の時にはアメリカ、韓国でも開花枯死が起きた。

<開花するとなぜ枯れるのか？>

開花期になると緑の葉が開かず葉は苞(花穂)に変わるため光合成ができなくなり、水や養分を吸いあげないので枯れてくる。枯れてから気づくことが多いがその前に開花している。

上田「竹と人生」 p.105 →



<開花には3つの種類がある> (内村)

- ①大面積が全て枯れる一斉開花…1964～66年のマダケ開花。
- ②部分開花…特定の竹林が数年間で順次開花するか、または開花場所を移動しつつ、開花域を広げる。マダケ、ハチクなどに見られる。
- ③単稈もしくは小面積での開花…モウソウチクに見られ、同時に開花するのは1本か数本程度である。

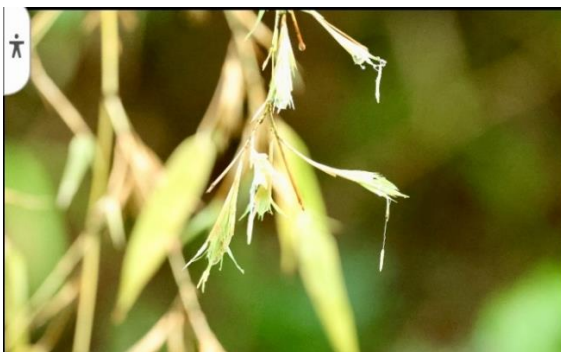
<猪高緑地でハチクが開花！>

名東区の猪高緑地では 2022 年5月にハチクが開花したそうですが、私が名東自然倶楽部の自然観察会に参加してそれを見たのは翌年の春です。塚ノ坎池の散策路沿いに、細いハチクが何本も枯れていましたが、近くに枯れていないハチクもあり、奥にも太いハチクが見えたのでかなり部分的な開花と思いました。下は開花時(2022年5月)の貴重な写真です。(提供:名東自然倶楽部 H・M さん)

↓花序とオシベ

▼ここの赤い小穂はメシベか(渡邊)

葉が苞になり膨らむ↓





↑ 枯れていた細いハチク ↑

↑ 枯れていないハチクも

<猪高緑地に2度目のハチク開花が！>

2024 年春に猪高緑地では2022年とは別の場所でハチクが開花枯死したそうです。今回は規模が大きく、竹林一帯が枯れています。(提供:H・M さん)



***2回のハチク開花枯死の様子を見ると、開花の種類の中の②部分開花に当たると思われます。**

全国的にもハチクの部分開花の情報が多くあるそうなので、猪高緑地の今後の様子に注目ですがそれ以上に、くらしの森にあるハチクの開花はあるのかどうか？こまめに観察していく必要があります。

<マダケの一斉開花とハチクの開花>

マダケの開花周期が 120 年と言われる根拠は、1846年に神奈川県足柄上郡中井町にある広翁院というお寺の過去帳に「諸国の竹と同じく竹藪が全面的に枯れたので切って売り払った」という確かな日付の記録があり、ちょうどその120年後1966年に全国的なマダケの開花枯死が起きたことにあるようです。この時は国内のマダケの半分に当たる大面積の一斉開花であったため竹が不足し、プラスチックがその代替品となり、その後の竹産業が衰退を辿るという深刻な事態が生じました。

マダケと生態が似ているハチクの場合も、1911年川村清一博士が『竹類開花ノ原因ニ就イテ』と題する論文を発表しその中に『淡竹開花年代表』があり、ハチクの開花は60年または60年の倍数に近いと記述されています。その表でハチクの最終の開花が1908年でありその120年後は2028年にあたること、しかもこの数年来全国で開花現象が起きていることから、現在ハチクの開花のピークに近づいているのではないかとされています。

一般的には人生の中で120年周期の竹の開花に会うことは奇遇、幸運と捉えますが、竹文化の衰退につながる恐れも指摘されているところです。

<ササの開花は？まだほとんど分かっていない>

*なんという名前のササなのか？（「竹とともに生きた我が人生」p166より）

- ①「エイヤー会津磐梯山は宝の山よ 笹に黄金が エーまた成り下がる」という福島県の民謡に出てくる黄金はササが開花した種のことではないか？…調べたが不明
- ②「あの有名な野麦峠の野麦というのは笹のタネのことだよ」（上田）…峠に群生する熊笹が10年に一度実を付け、土地の人が野麦と呼んでいた、の説あり

*笹は竹よりも寒冷を好むので日本には多種類があり、笹が開花したタネを米に混ぜて食べたという話やくらしの森のクマザサがタネを付けた話も聞いたことがあります。10年とも60年ともいう笹の開花周期はまだ謎が多いのですが、マダケやハチクの120年周期よりは遥かに短いので、笹を見たらタネが付いていないかを観察して共有したいものです。

●余白に今までの関連写真を…

東星中学校に2011年に寄贈されたスホウチクの様子(2023) ↓



ハチクの地下茎の一部 ↓

